

# 研修における人材育成

# 事業経緯

---

- ▶ 特養の位置づけと利用者の重度化からの課題
- ▶ 人員基準から見た実務的対応からの課題
- ▶ 医師法等からみた「医行為」についての整理

## 事業目標

---

- ▶ 看介護職員の協働により安全性を確保したうえで
  - ※ 口腔内のたんの吸引
  - ※ 胃瘻による経管栄養実施中の見守り、終了後の対応

介護員が実施出来る様、看護師が施設内にて研修を実施する。

# 事業目標

---



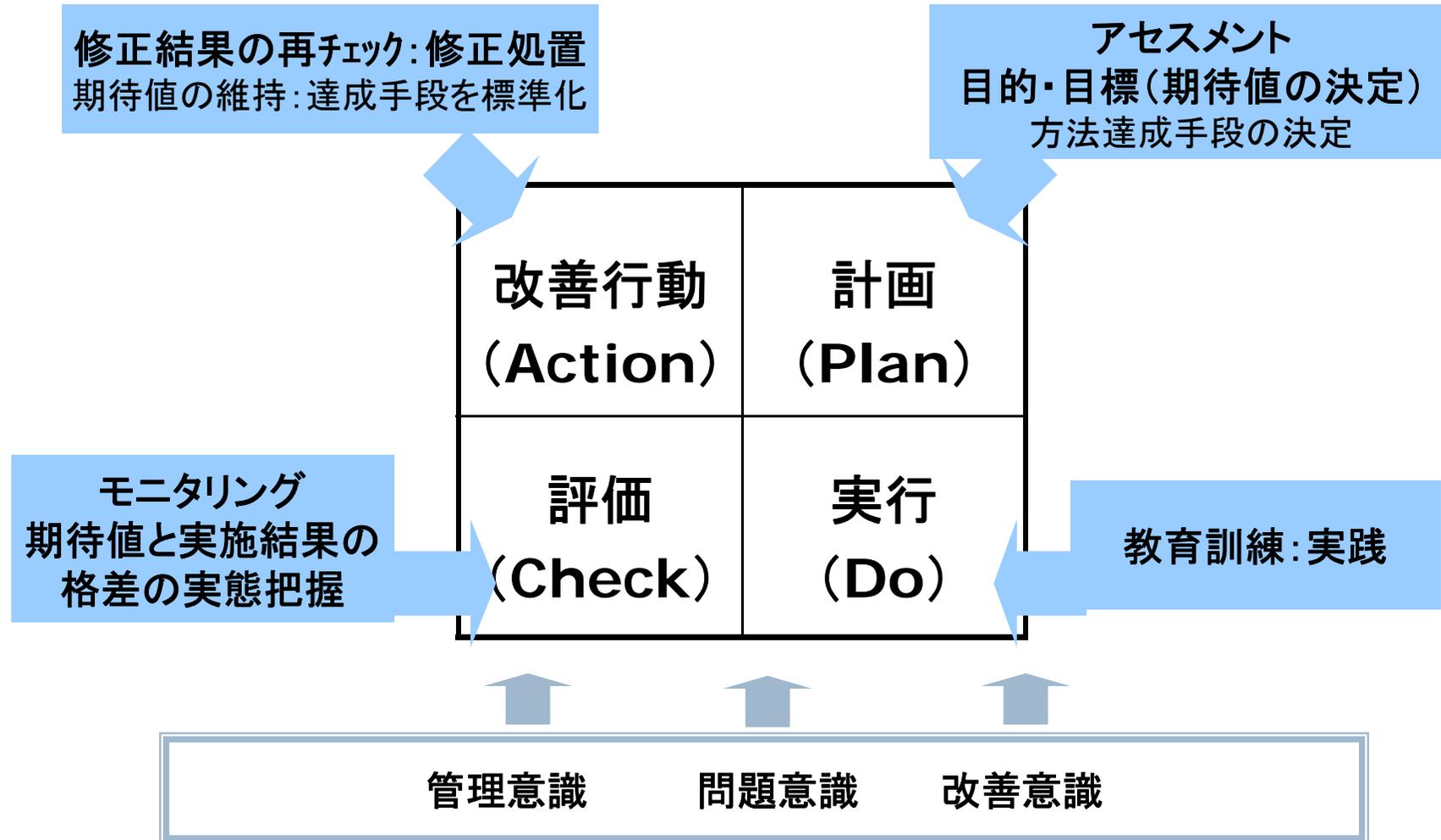
実施にあたっては、医療的ケアに関する倫理観を持ち、高齢者の身体に関する知識を持ち、安全に考慮し実施できる。

## 研修の目的

---

- ▶ 特別養護老人ホームの入所者の重度化の進行等により、医療的ケアを提供するニーズが高まっている状況に対応するため、本研修を受講した看護師の皆さんが、医療的ケアに関する専門的な教育を受けていない介護職員に医療的ケアに関する知識を理解して貰うとともに実技を習得してもらうように指導できる様になる。

# 研修準備～指導者に求められること～



## 研修準備～指導者に求められること～

---

- ▶ 咽頭手前までの口腔内の痰の吸引
- ▶ 胃ろうによる経管栄養（栄養チューブ等の接続・注入開始を除く）

実施する為に、何を理解するか  
何を伝えるか、これが肝要です。

## 研修準備～指導者に求められること～

---

- ▶ 看介護職員の**協働**により  
安全性を確保し実施するとは...
- ▶ 医療的ケアに関する専門的な教育を受けていない  
職種に対する理解のすすめ方とは...

## 研修準備～指導者に求められること～

---

- ▶ 座学：PPや資料から基礎的知識の理解
- ▶ OJT：実際に側で「見て、聞いて、実行して、振り返ってもう一度」の繰り返しにより精度の向上を図る。

介護職員は、医療的教育は受けていません  
解らない事ばかりだと言う事を意識して研修を  
組み立てる必要があります。

## 研修準備～指導者に求められること～

---

- ▶ PDCAを踏まえ

- ▶ P（Plan：計画）

- ▶ 分かり易い指導

何を達成してもらうのか（目標）

何をどのように指導するのか（内容：方法）

## 研修準備～指導者に求められること～

---

- ▶ D (Do: 実行)
- ▶ OJT :現場での実践
- ▶ 座学で学んだことを実際に実施する。
- ▶ 理解し易い明確な指示が必要。

## 研修準備～指導者に求められること～

---

- ▶ C（Check: 評価）
- ▶ 好ましくない点、悪い点を根拠に基づき明確に指示する。
- ▶ 正しい実践の方法や、その理由、また、その重要性を理解出来るように説明する。

## 研修準備～指導者に求められること～

---

- ▶ A（Action:改善行動）
- ▶ 評価により改善項目を明瞭にし、具体的な改善行動を明確にする。

指導者は、PDCAのどの場面においても、明瞭に説明できる技量と何が不安なのか、何が分らないのか、何が出来ないのかななどを洞察する力も必要です

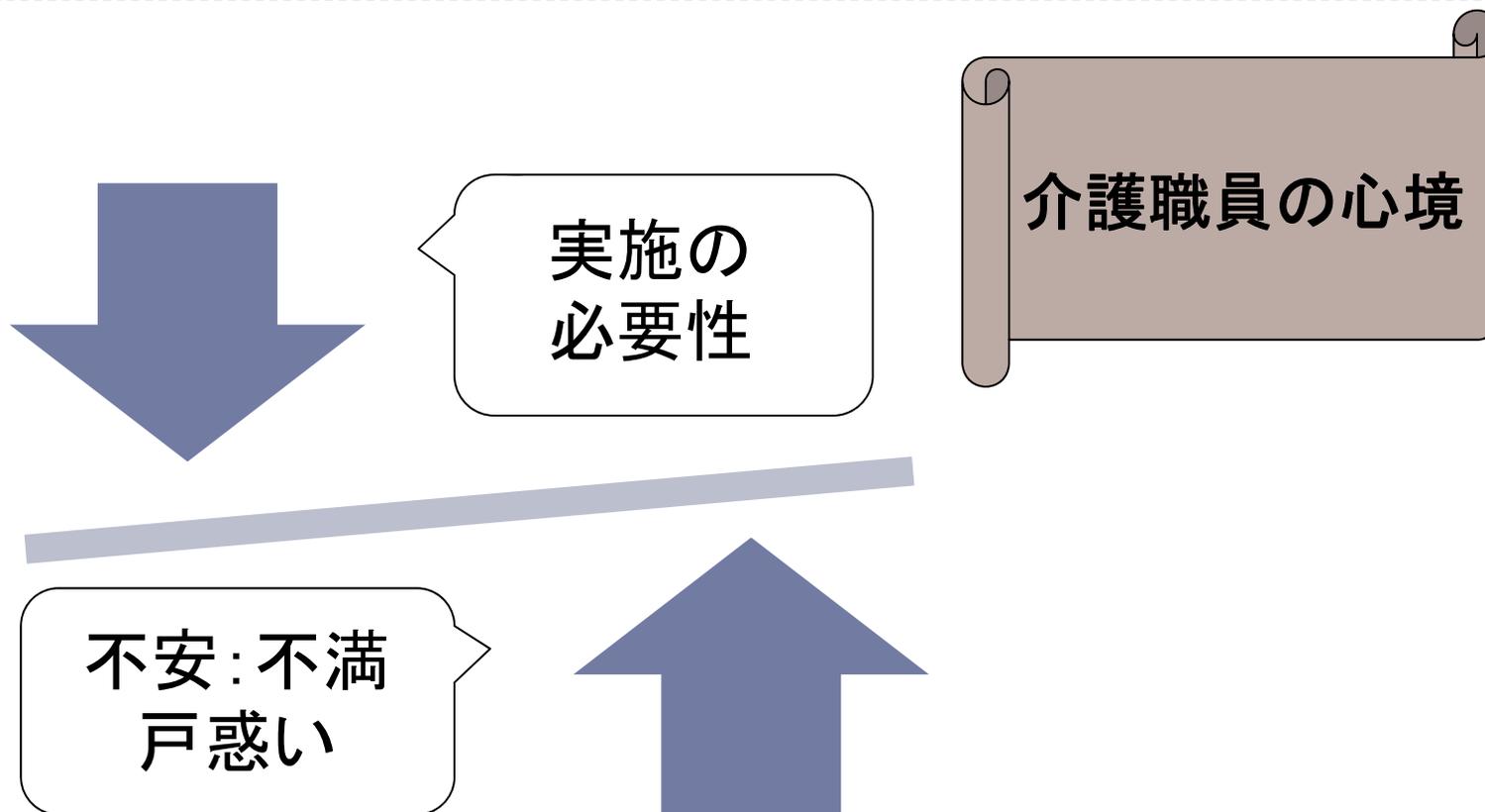
# 研修の実際

---

- ▶ 研修の意義の理解
- ▶ 介護職員による医行為の実施の必要性

# 研修の実際

---



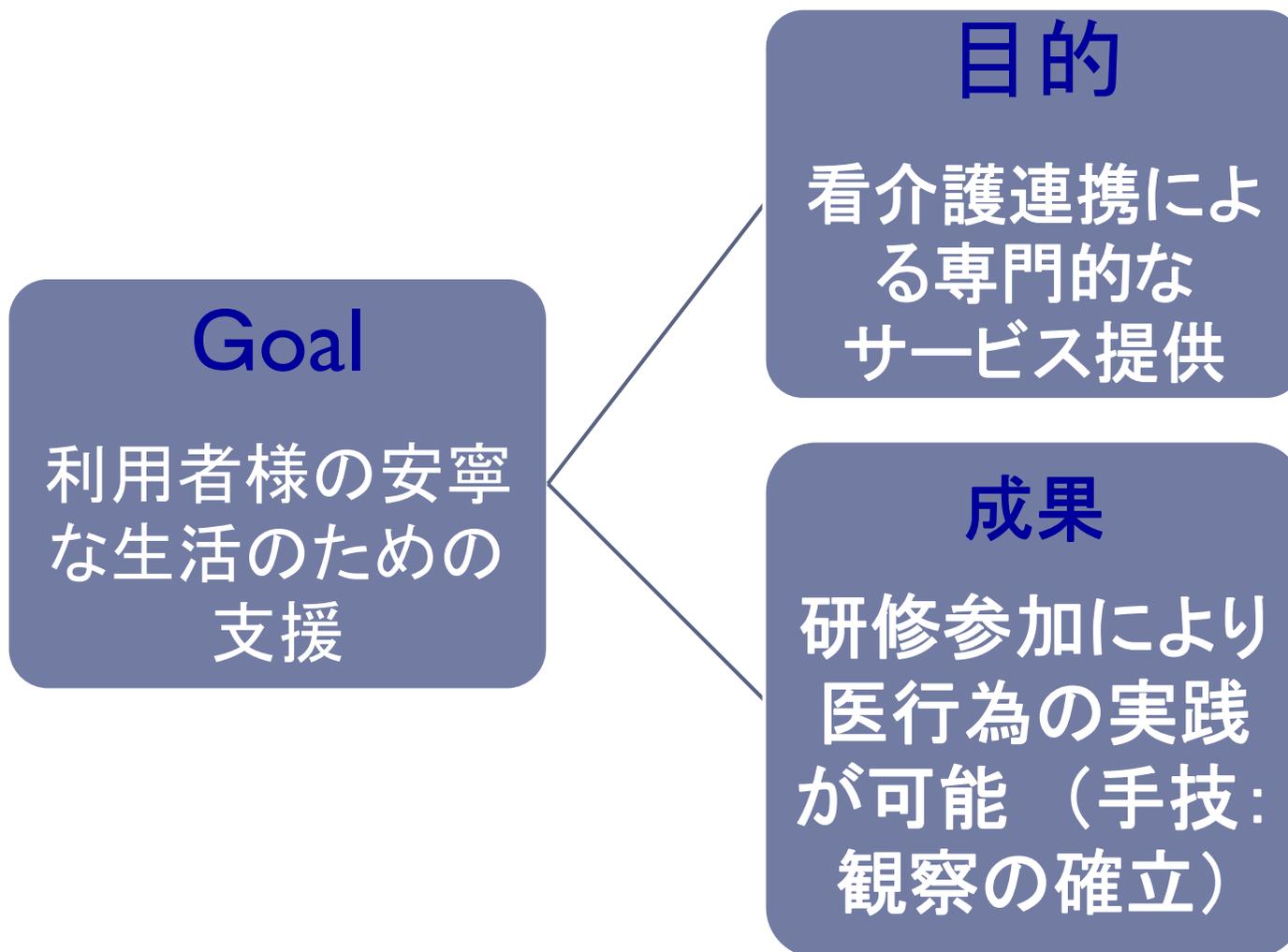
## 研修の実際

---

- ▶ ゴールを明確にする。
- ▶ 目的と成果の決定。

# 研修の実際

---



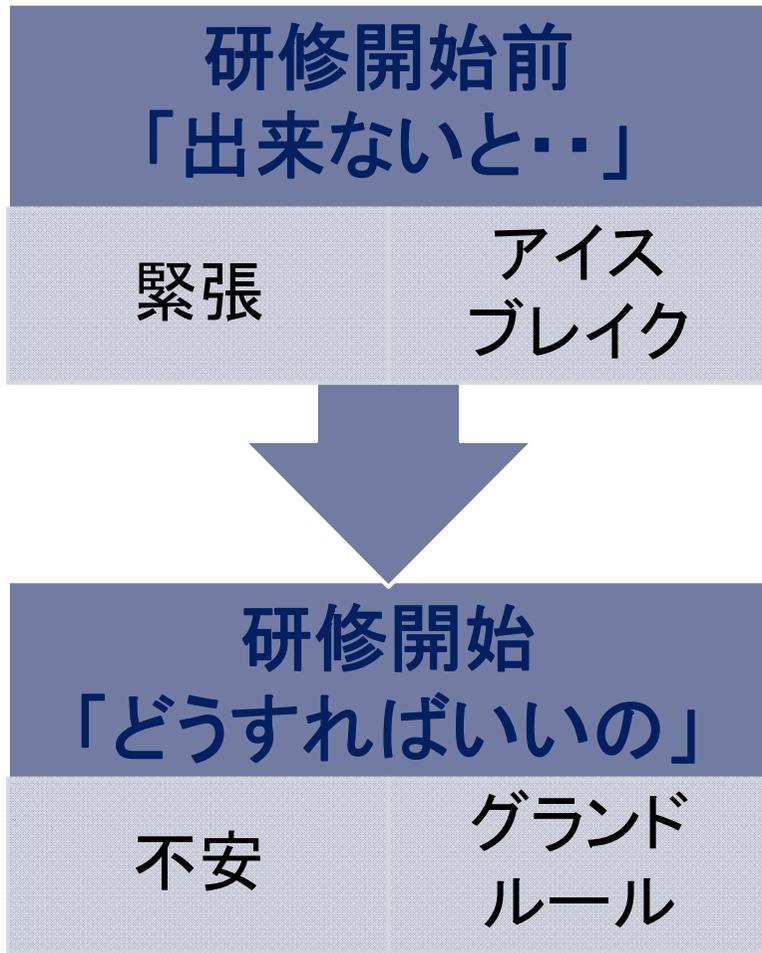
## 研修の実際

---

- ▶ 研修参加後は結果を実感できるよう組み立てる。
- ▶ 顔なじみの職員同士だからこそ、「間違えたら…」  
「解らないと言えない」などの気持ち働きやすい。
- ▶ 研修では、考えや、感じていることを話しやすい環境を整える事が重要です。
- ▶ 研修のプロセスデザインは重要です。

# 研修の実際

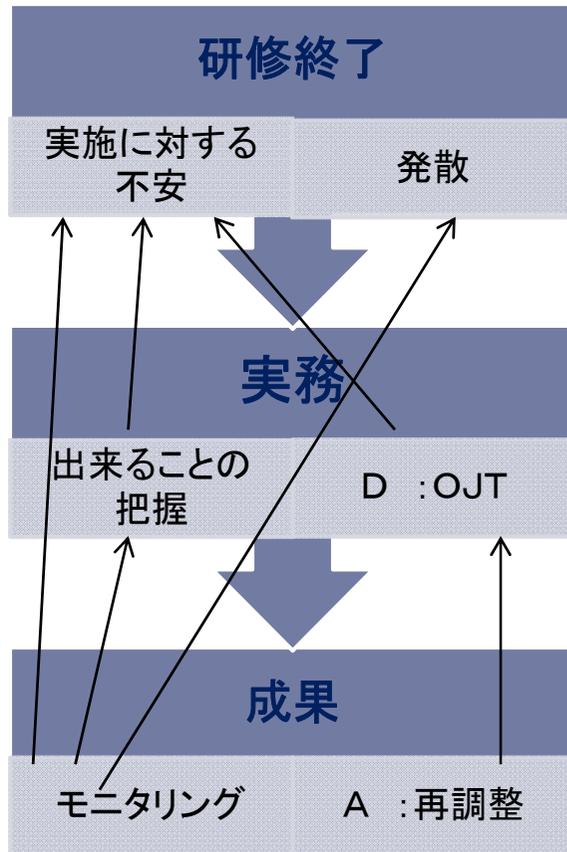
---



ガチガチの緊張ではないにしろ  
リラックスは必要です。

研修自体の進め方の約束です  
研修は、あくまでも自己研鑽の  
場面でもあります。  
率先して研修参加を促すためにも  
効果的です

# 研修の実際



研修終了後の感想や実感をしっかり発散させ、研修の意義や目的理解を考えてもらいます

実務においては、セオリーの重要性から、倫理観、根拠などの理解を丁寧に進めます。

手技的な事に対する客観評価と、倫理観等に対する主観的評価が必要です  
いずれにしても、指導者の自己評価も合わせ今後につなぐ機会とします。

## 研修準備～指導者に求められること～

---

- ▶ 研修参加により座学からOJTを通じ、介護職員自身で振り返ることが可能になる事が必要です。
- ▶ 実施する中では、達成度をモニタリングする。
- ▶ 指導者は、介護職員の達成度から自身のモニタリングを実施する。

## 研修の実際

---

▶ 医療職 VS 介護職

▶ 医療職 > 介護職

といった印象を持たせない配慮が、その後の協働や連携には不可欠。

▶ 「利用者の尊厳ある生活を支える為に、互いに何を考え、何をなすべきかを、考え取り組まなければならない」 その為であることの認識が必要。

## まとめ

---

- ▶ 手技が充実することだけが目的ではない、利用者の今日、明日、明後日とつなげる為、私たち専門職同士が、どのような関わりをもつべきか、協働とは何を指しているのかを考えるべきかと考えます。